

学習と読書を混同しないで

目先のおもしろさに心を奪われ、思慮深さに欠ける行動をしてしまった生徒たちを、先日私は校長室に一人ずつ呼びました。備品を破損させた事実もありましたが、それは大したことではありません。今回の行動をきっかけにして、新しい自分を作ってもらいたいと考えたので、ある人物の言葉を教えました。

「君子は和して同ぜず。小人は同じて和せず。」
昨年度の卒業式の日に発行した「学校だより」にも載せました。恐らく彼らは読んでいないだろう、読んでいても覚えていないだろうと思います。案の定、その言葉どころか、「学校だより」にその言葉が載っていたことすら知りませんでした。

「立派な人物は、仲間と足並みをそろえることはできるが、決して人につられたりはしない。逆に、つまらない人物は、すぐに人につられて、仲間と足並みをそろえることができないう意味なんだ。日本で土器がつけられていた時代に、隣の中国では孔子（こうし）という先生がいて、弟子たちにこのように話していたんだよ。『君子』とまではいかないにしても、君たちも『君子』に近づくために頑張ってくれよ。期待しているよ。」

正直言って、この言葉が彼らにどれだけ影響を与えたかはわかりません。実は私は、彼らに次のことの方が言いたかったのです。「この言葉は、これらの本に載っているよ。」

難しそうに思えるけど、これらは図書の本だよ。中学生ならこういう本を読んでもおかしくないということだよ。」

これが読書の目的です。読書は学習と違います。学習は学力をつけるために取り組むものですが、読書は人間性を高めるために取り組むものです。学力と人間性はどちらが大切かということではなく、並行して身に付けるべきものです。

「学力日本一」で一躍有名になった秋田県東成瀬村の児童一人当たりの図書購入費はなんと、六〇〇〇円！（全国平均は一三七円）。その成瀬村の教育長は、次のように言っています。

「読書の効果は絶大です。本を通して子どもたちはこの世界にはさまざまな人がいて、さまざまな考え方があることがわかる。それは『異質性』に触れることでもあり、内面の豊かさを育む手段でもあります。」

読書をするから学力が高いわけではありません。読書を通して内面の豊かさ（人間性）を身に付けるから効率のよい学習が工夫でき、学力を身に付けることができるのです。

今日は実力テスト。朝読書の時間に参考書や問題集を広げていた生徒がいました。たった十分間の朝読書ですが、この読書がじわりじわりとあなたを魅力的な人間にしてくれます。そして、それが学習にも良い影響を与え、学力向上につながるのだと私は思います。

（五月十日 記）

